

令和6年度 豊田市環境審議会 第2回専門部会（自然共生社会） 会議録

【日時】 令和6年11月12日（火）午前9時から11時

【場所】 豊田市役所 環境センター3階 環境部会議室

【出席者（部会長以下五十音順）】

部会長 増田 理子 （名古屋工業大学 社会工学専攻 教授）

大坪 瑞樹 （豊田市自然観察の森 所長）

渡部 教行 （豊田市自然愛護協会 会長）

（事務局）環境政策課 塩谷課長、浦野副課長、弘中担当長、山井担当長 ほか

【欠席者】 篠田 陽作 （ネイチャークラブ東海 代表）

【傍聴人】 なし

【次第】 1 部会長挨拶

2 議題

・ アンケート、ワークショップの結果報告について（報告）

・ 次期豊田市環境基本計画（素案骨子）について（協議）

1 部会長挨拶

- ・地球温暖化の問題が非常に深刻化している。その中で自然共生部会の役割は大きいものだと思っている。
- ・みなさんから忌憚のないご意見をたくさんいただき、よい案ができるようしていきたい。

2 議題

(1) アンケート、ワークショップの結果報告について（報告）

部会長	「アンケート、ワークショップの結果報告について」（資料 1-1, 1-2）の説明を事務局から願います。
事務局	（配布資料「資料 1-1、1-2」について説明）
部会長	事務局の説明について、意見、質問等をお願いしたい。
	（意見なし）

(2) 次期豊田市環境基本計画（素案骨子）について（協議）

部会長	「次期豊田市環境基本計画（素案骨子）について」（資料 2）の審議事項①～④の説明を事務局から願います。
事務局	（配布資料「資料 2」審議事項①～④について説明）
部会長	事務局の説明について、意見、質問等をお願いしたい。
委員	P3 基本方針（案）には「豊かな自然とつながるまち」と表記されているが、以降の表記が「豊かな自然をつなぐまち」となっているがどちらか。
事務局	もともと「豊かな自然とつながるまち」で検討していたが、第9次豊田市総合計画で次代を担うこどもたちへとつないでいくという観点が重要視されているため、「豊かな自然をつなぐまち」にしてはと考えている。一人ひとりが豊かな自然とつながってほしいということと次代に豊かな自然をつないでいきたいという思いがあるが、どのような表現がよいかご意見をいただきたい。
事務局	企画課（総合計画の所管課）と話した時には、市民主体でつながっていくということを考えると、行政が作った仕掛けのようにとらえられる「つながる」よりも主体性が感じられる「つなぐ」の表現を使用していきたいという話があった。
委員	「豊かな自然とつなぐまち」の方が様々なニュアンスを含めることができると思うが、一方で市民の方の受け取りが曖昧になる可能性があるため、言葉を足したほうが良いのではないか。
事務局	例えば「豊かな自然とつながり、未来につなぐまち」はどうか。

委員	あるいは「豊かな自然をつなぎ、つなげるまち」はどうか。これだと、自分たちがつながっていくということと、自然という事象をつなげていくということの両方の意味が含まれている。
委員	めざす環境像を示すキャッチフレーズ「自然を未来につなぐまち」は、わかりやすい言葉であると思う。この表現を残すのであれば基本方針の表現については、どちらでもよい。 めざす環境像の中にある「豊かな心」は、環境基本計画の施策の中に該当するものはないため、施策の柱にうまくつながる展開が必要になってくると思う。つながるとすると、安心安全社会分野だと思う。 もしくは、環境像を「豊かな自然を未来につなぎ、安心安全な豊かなまちとよた」という2つに分けて表現してもいいのではと思った。
事務局	「豊かな心」を入れた理由の一つは、目指すべき将来像のワークショップを行ったときに「心豊かに安心して暮らせるまち」にしていきたいという声があがっていたことである。二つ目は、環境省が策定した環境基本計画でウェルビーイング（高い生活の質）を最上位に整理をしており、豊田市では総合基本計画を検討にあたり「心の豊かさ＝ウェルビーイング」として捉えて施策を考えているためである。 ご指摘の点についてはおっしゃるとおりだと思う。「豊かな心」につながるのは、安心安全分野や共働で他者とのつながり、自然とのつながりであると思うが、施策の受け皿がないところに関しては課題だと思う。
委員	個人的には、豊かな自然を未来につなぎ、豊かな心を育むまちとよたというような表現がわかりやすい。
委員	環境基本計画では各分野が独立しているが、自然環境は全ての人間活動の基盤となるものであり、自然環境の保全の中に脱炭素社会・循環型社会・安心安全社会があるイメージがよい。現在の資料では自然共生分野が独立して展開されているように見える。自然共生しながら脱炭素しなければならないと思う。
事務局	それぞれが密接に関連しているので、その関連性をきちんと描いたほうがよいのではという意見として参考にさせていただく。 国も共進化と言っていて、シナジー効果を発揮させるべきだと言っているので、そのような描き方ができるとよいかもしれない。
委員	市民の関心を高めるうえでもクロスリンクしている方がよいと思う。 今のままでは自然共生分野だけ独立したものとして考えられており、自然共生分野への関心が頭打ちになっている。他分野とのクロスリンクを表現することで、無関心層にも興味を持ってもらえるのではない

	か。
部会長	その他、安心安全の分野は独立して残したほうが良いのではないかと の意見が他の部会であったが、それに関して何か意見はあるか。
委員	市の重要課題に防災があると思うが、この内容は入れ込まないか。
事務局	昨日の脱炭素部会でもご意見があり、防災・減災の計画は別であると 説明した。しかし、気候変動をいう上で緩和と適応は両輪なので、施 策をぶら下げるかは別ではあるが、柱立てとして防災・減災や健康リ スクは必要ではないかという意見が出た。
委員	市民生活から考えたときに、防災の視点抜きに安心・安全を語ること はできないため、施策の中に盛り込まれていた方がよいと思う。
事務局	（配布資料「資料 2」の審議事項⑤（自然共生社会）について説明）
部会長	意見や質問はあるか。
委員	今後も、生物多様性を保全し、その場で様々な取り組みを継続してい くと思うが、旧市街地にある豊田市自然観察の森だけでは足りないと思 う。旧町村地区（藤岡、小原、旭、足助、下山、稲武）から自然観 察の森に行くには遠い。そのため、旭は旭高原、稲武であれば大井平 公園など既存の施設を市の自然保全地域として選定して、計画的に維 持・整備していけるとよいのではないか。例えば、旧町村地区の中に 自然重点整備地域のようなものを選定して、そこを計画的に整備して いくイメージである。また、人工林が大部分を占める豊田市の森林に おいて、現在残されている原生林や自然林は動植物の多様性や景観上 の視点から重要性が高い。そういった場所を選んで、計画的に保全で きるとよいのではないか。
事務局	場を取得して、保全するということは現実的には難しい。既存の場所 で団体の活動があるところは共働して取り組みを促進していくという 関わりになるし、市有地であれば場の保全としてできる部分で推進 していくということはできると思う。現状アイディアはないが、今後 検討していく。
委員	場の評価をしていく試みはあった方がよいと思う。ネイチャーポジ ティブにかかわる自然共生サイトの登録をどの場所で進めるとよいか などを考えていくうえでも、客観的に評価をして、市民に伝えること をしたほうがよい。様々な施策があるが、こういったことを優先してや っていくべきなのかメリハリをつけるとよいと思う。
委員	施策の例に農山村環境の保全があるが、その中では竹林の管理も重要 である。豊田市では現状そこまで広がっていないが、三重県などでは 20 年前の 3 倍ほどになっているらしい。今のうちに施策を立ててお

	くとよいかもしれない。竹の伐採は危険度が低いため、企業の自然環境の取組のメニューとしても用意しやすいと思われる。 また、今回新しく提案された施策の柱である多様な主体の参画の促進はとても良いと思う。豊田市では、既に自然共生サイトへの登録の支援など民間への支援を行っているので、施策の柱として設けることで現在の取組を市民にもわかってもらえるのでよい。 また、生物多様性の理解が進まない理由のひとつには、自然体験のプログラムがつまらないことがあげられる。多くの場合、自由度が少なく、決められたことをやらないといけないものになっている。活動の中でタケノコが掘れたり、わらびがとれたりといったちょっとした楽しみむの仕掛けがあるとよい。 幅広い市民のニーズに適應できる自然体験プログラムでは、ハードルを高く設定せず、ウォーキングのイベントに自然に関するクイズをつけるだけでもいいと思う。簡単なことで自然環境に意識を向けてもらおうとよい。
委員	実施する立場としては、自然体験プログラムの参加者に、何か学びを持ち帰ってほしいという気持ちが強く出てしまう。
委員	プログラム中では、動植物を採取してはいけないといった制約はない方がよい。
委員	自然体験講座の標題に「環境学習」という文字がつくだけで構えてしまう。環境学習を意図するとしても、まずは、楽しく森歩きをしてもらう程度の内容でよいのではないか。
委員	プログラムを計画するにあたり、めざす環境像の「未来をつなぐ」という意味では子どもを対象にしていくことは大変重要ではあるが、対象が絞られてしまう。10～20年後には豊田市の人口構成の30～40%が60歳以上となるので、60～70代の人たちが楽しめるようなプログラムもあったほうがよい。
委員	高年齢向けには、鹿の解体プログラムなどもよい。お肉を持ち帰ることができるのと集客も期待できる。また、幅広い年代を考えるとハイキングや登山もよい。生物多様性のゆるキャラを作って、楽しめるスポットに貼るといったことでもよいかもしれない。
事務局	(配布資料「資料2」の審議事項⑤(安心安全)について説明)
部会長	意見や質問はあるか。
委員	冒頭に申し上げたが、良好な生活環境の形成のところに防災に関してどこがどのように進めていくのかと合わせた形で環境基本計画に折り込んでおくとよいと思う。

事務局	防災計画の内容を埋め込みながら、環境基本計画でやっていくこと整理できるとよいと思うので、入れ込み方を検討する。
委員	防災に関してはサイエンティフィックな内容が含まれる講座を開催するとよいと思う。例えば地震のことであれば、常識以上の地質学的な内容に触れるなど、人の知識欲を満足させる仕掛けがあると、学ぶ意欲が出てくるので、多くの市民の方が参加するのではないかと思います。

3 その他

・意見交換

部会長	その他、委員から意見等はあるか。
委員	アンケートの結果を通してみると、自然環境に関しての市民の満足度は高いが、関心度は低く、現状のままでよいと考えている人が多いと感じる。しかし、何もしない場合、自然環境は劣化していくため、積極的に自然環境を保全していく必要があることを市民に理解してもらう必要がある。グリーンインフラについても、市街地にお住まいの方からすると車で5分走れば自然観察の森があり、身の回りに自然があるから何もなくてよいと思っている人が多いと思う。そうではなくてインフラとして緑が必要だとわかってもらう必要がある。
委員	せっかくワークショップも外国人向けに実施しているので、自然観察の森で外国人用の講座をやってみると開かれたまちになると思う。
委員	外国人の方も来やすいようにできればと思うが、英語がわかる職員はいるが、スペイン語やポルトガル語はいないなど、言語が課題になる。
委員	講座ではなく、昆虫採集などの自然体験でもよいと思う。
部会長	ほかに意見はあるか。
	(意見なし)
部会長	それではこれで議事を終了します。事務局へ進行をお返しする。
事務局	今後の予定として、令和7年3月14日(金)午前10時00分から環境審議会本会議があるが、令和7年1月下旬から2月上旬頃に自然共生社会部会を開催させていただきたい。近日中に、日程調整をさせていただく。